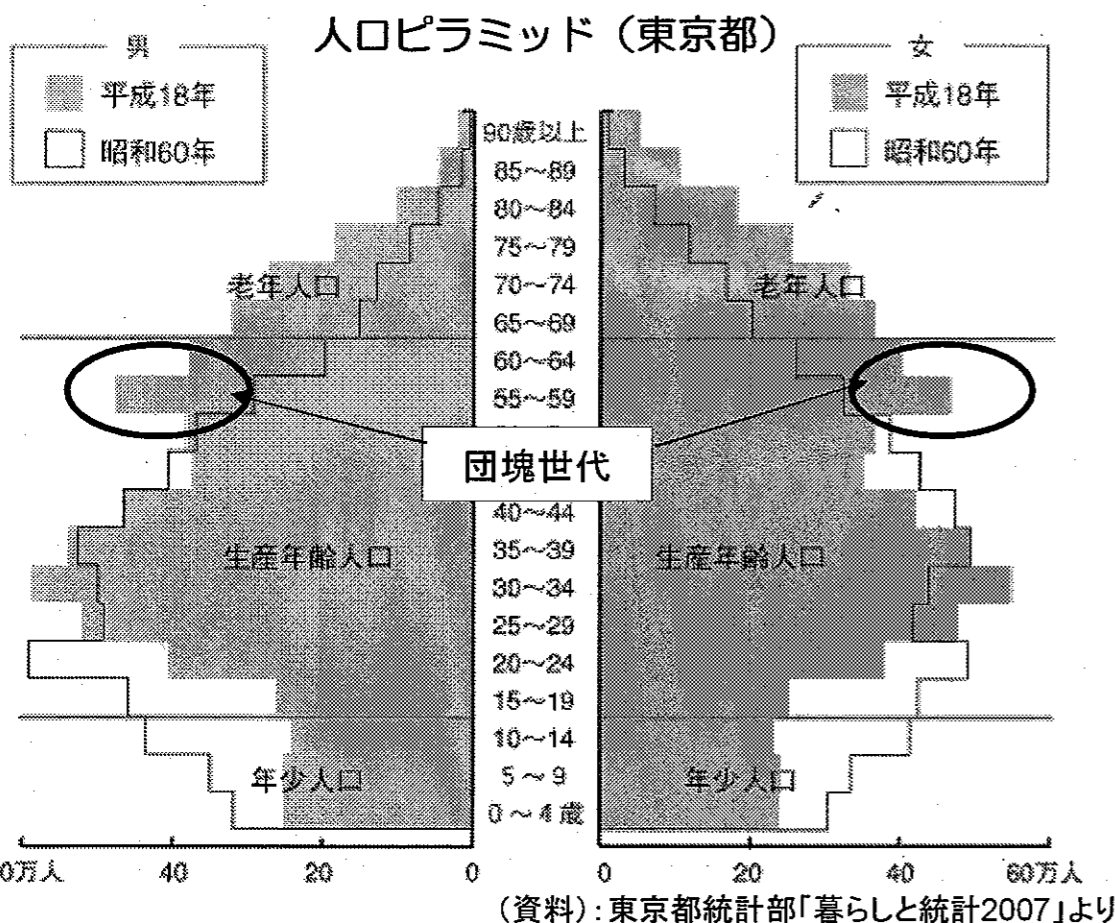


団塊世代

昭和22年(1947年)から24年(1949年)にかけて生まれた世代

人口



団塊世代人口と割合 (単位:万人)

	人口	団塊世代人口	割合
東京都	1,258	62	4.93
神奈川県	879	45	5.12
千葉県	606	34	5.62
埼玉県	705	39	5.54
大阪府	882	49	5.56
全国	12,777	678	5.31

(資料): 平成17年国勢調査

平成20年1月1日時点の東京都の総人口は1,243万人で団塊世代の人口は61.3万人。総人口の約4.9%。他都市に比べて総人口に占める割合は少ない。しかし規模は圧倒的に多く、全国の団塊世代の約10%が東京在住。

団塊世代の居住状況 (万人)

	昭和25年 (a)	平成17年 (b)	増減 (b)-(a)
全国	744	678	▲ 66
三大都市圏	243 (32.7%)	334 (49.2%)	91
その他地域	501 (67.3%)	345 (50.8%)	▲ 156

(資料): 総務省「国勢調査」

(注)三大都市圏とは、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、岐阜県、愛知県、三重県、京都府、大阪府、兵庫県をいう。

【参考】

○団塊の世代が進学・就職時に都市へ移住したことで、約半数が三大都市圏に居住。都市化の動きと連動。

○都市化の流れで都市に移住した団塊世代の地方回帰願望は他の世代に比べて若干高い程度

○団塊世代の約7割が雇用者(サラリーマン)で、核家族の形態が増加。

意識

■世田谷の新しいシニア世代・団塊の世代の意識調査 (回答者 100人) 平成18年度実施

○現在の仕事について、定年はないのでできるだけ働きたい(25件)、再就職を考えている(21件)、まだわからない(18件)

○リタイア後の計画は、2年後は趣味・ライフワーク(45件)、新しい仕事(23件)、5年後は趣味・ライフワーク(46件)、地域活動(15件)の順。

○リタイア後の地域とのかかわりについて、お付き合い程度にかかわりあいたい(43件)、気持ちはあるが良くわからない(29件)、積極的にかかわり合いたい(19件)の順。

○地域活動としてやってみたいことは、関心のある分野のボランティア活動(37件)、趣味のサークル活動(36件)、老人大学・生涯学習講座受講(21件)、NPO活動(16件)の順。

■品川区「団塊世代の社会参加に関するアンケート」 (回答者 4857人) 平成20年1月実施

○当面の活動(今後5年程度)の優先順位では、「1位」の割合が最も高かった活動は「働く」で61.1%、次が自分の趣味や習い事で25.7%。ボランティア・NPO等は2.4%。

○地域活動への参加状況では、「町会や自治会活動」が高いが、全く参加しない割合が高い。

○今後の地域活動への参加意向では、参加したい活動は「ボランティア・NPO」(22.7%)と高く、「誘われたらやってみよう」35.5%、「参加しない」(36.6%)。

○何歳まで働きたいかでは、「65歳まで」が53.3%、「66~70歳」31.7%。

○コミュニティビジネスに対する考え方は、「働きたい」が1割、「誘われたら、働いてもよい」が3割。

調査から 見えてくる こと

○団塊世代の多くは、当面5年間程度は働きたいと考えている。5年以降は、地域活動への関心も高い。

○地域とのかかわりについて、まったく関わりたくないという否定派は少なく、適度な距離感でのつながりを求めている。きっかけ、誘いがあれば参加したいと考えている。

○ボランティア・NPO活動についても関心が高い。

→ 今後の団塊世代の地域参加が期待できる